共創チャレンジ１

資料３

テーマ：子ども・若者が目標を持ち、自ら取組むことができる環境づくり

	A：現状と課題	B：アクションアイデア	C：理想
事務局素案	●児童、生徒、高校生、若者が新たな分野に興味を持ったり、将来の自分をイメージしたりできるような環境が十分ではない。	●子どもや若者の居場所づくり ・自習スペースのさらなる確保 気軽に訪れることができる自習スペース及び交流空間の創出 ・オンラインの居場所 交流、体験、社会見学をテーマとした居場所の創出やコンテンツの提供（美術・音楽・科学・ダンスなど） ・起業家や人生の先輩（高校生や大学生を含む）による講演 自分自身の将来を考えるきっかけ、機会の創出	●子どもや若者が目標に向かって自ら取り組み、挑戦することができ、「将来に対する夢や希望」を持つことができるようになる。
総合計画審議会の意見	－	【仕事に関すること】 ・糸島でどのような働く場所（業種、企業）があるか明示していただきたい。 ・起業家だけでなく、糸島で働く様々な職業の人たちや、新しい取組みに挑戦している若者の講演を企画していただきたい。 ・１つ仕事を選んだから終わりではなく、その先には別の選択肢があることを知る機会が大事ではないか。 ・「実務家」の表現の中に、「起業家」が入るイメージの方がいいのではないか。 ・年代に適した教育により、職業にいろんな選択肢があることを伝えていただきたい。 【居場所に関すること】 ・オンラインや自習スペースの確保だけはなく、居場所で実際に体験できる場所を検討していただきたい。 ・コミュニティセンター中心として、図書館、美術館、博物館等も利用しながら、実際に体験できるような居場所を作っていただきたい。 ・夏休み限定の体験等、実施する期間を限定してはどうか。 ・体験として数日行くだけではなく、本格的な職業体験ができたらいい。 ・提供者側の窓口や場所の設置ができるといい。 【その他の意見】 ・情報発信に力を入れていただきたい。 ・ホームページなどで、糸島のモノづくりや光っている人の動画を配信していただきたい。	－
修正案	●児童、生徒、高校生、若者が新たな分野に興味を持ったり、将来の自分をイメージしたりできるような環境が十分ではない。	●子どもや若者の居場所づくり ・自習・交流スペースの確保 気軽に訪れることができる自習スペースや交流の場を設け、自由に集まって学んだり、交流したりできる環境の整備 ・体験機会の提供~~オンラインの居場所~~ 実際に体験できる場所やオンラインでの居場所をつくり、交流、職業体験、体験教室などの活動を通じて様々な経験を積むことができる機会の提供 ・人生の先輩による講演 糸島で働く人々や大学生、高校生など、さまざまな生き方をしている先輩たちの講演を通じて、将来の選択肢を考えるきっかけを提供	●子どもや若者が目標に向かって自ら取り組み、挑戦することができ、「将来に対する夢や希望」を持つことができるようになる。

共創チャレンジ２

テーマ：日本人も外国人も、安心して暮らすことができる共生のまちづくり

	A ：現状と課題	B ：アクションアイデア	C ：理想
事務局素案	●福岡都市圏において、外国人の人口が２番目に多く、今後も増加が見込まれる。 ●外国人が日本での生活で困っていることは、「税金・年金」「病気やけがをしたとき」「近所の人との関わり方」などとなっている。 ●多文化共生活動を行うボランティア団体等が少なく、外国人市民を支援できる人材が不足している。 ●多文化共生団体が活動する場所が限られている。	●ボランティアや地域と連携した外国人コミュニティセンターの開設 ・外国人転入者に対する支援 糸島での生活ルールに関する情報提供、生活に関わる困りごと相談窓口の設置等により、外国人の“糸島生活”を支援 ・ニーズに沿った支援 日本人との交流、先輩外国人との交流機会の創出などにより、外国人の安心・充実した生活を支援	●外国人が安心して暮らすことができ、日本人市民との関係においてもお互いを尊重しながら良好な関係を築くことで、「将来の糸島生活に対する夢や希望」を持つことができるようになる。
総合計画審議会の意見	―	・定住する人や単身で来日する人、配偶者と一緒に来日する人など、多様な外国人への対応が必要である。 ・多様な外国人に対して、糸島に来て最初の段階でしっかりとした情報を伝えることができるか、サポートできるかが一つのポイントとなる。 ・それぞれの外国人が困ったときに、対応できる環境の整備が必要である。 ・学校においても、子どもたちへの対応について考えていく必要がある。 ・行政だけでなく、ＮＰＯや外国人を支援している団体等と連携しながら対応することが必要である。 ・外国人ばかりに条件を付けるようなことではなく、日本人も外国人への支援や受け入れるといった心構えが必要である。そのため、日本人に対する取組等をアクションアイデアへの追記を検討いただきたい。	―
修正案	●福岡都市圏において、外国人の人口が２番目に多く、今後も増加が見込まれる。 ●外国人が日本での生活で困っていることは、「税金・年金」「病気やけがをしたとき」「近所の人との関わり方」などとなっている。 ●多文化共生活動を行うボランティア団体等が少なく、外国人市民を支援できる人材が不足している。 ●多文化共生団体が活動する場所が限られている。	●ボランティアや地域と連携した外国人コミュニティセンターの開設 ・外国人転入者に対する支援 糸島での生活ルールに関する情報提供、生活に関わる困りごと相談窓口の設置等により、外国人の“糸島生活”を支援 ・多様な外国人のニーズに沿った支援 市内で生活する外国人それぞれの状況に応じたきめ細かな取組により、安心・充実した糸島生活を送れるよう支援するとともに、交流事業や情報発信などを通して、日本人市民に対しても外国人を受け入れる心構えや外国人との共生によるまちづくりへの意識を醸成	●外国人が安心して暮らすことができ、日本人市民との関係においてもお互いを尊重しながら良好な関係を築くことで、「将来の糸島生活に対する夢や希望」を持つことができるようになる。

共創チャレンジ３

テーマ：農村環境の維持による自然環境や景観の保全と地域活性化の仕組みづくり

	A ：現状と課題	B ：アクションアイデア	C ：理想
事務局素案	●農業は本市の魅力の一つであるとともに、農産物は全国的に認知度が高く、人気も高まっている。 ●農家は農業だけではなく、地域の草刈りや水路清掃などの作業を行っており、その活動は、豊かな自然環境や美しい景観の保全に貢献している。 ●農家の高齢化と担い手不足が進行しており、地域農業を維持するための労働力の確保が課題となっている。	●市民による“援農”体制の整備 ・農業に関わりのない市民が、地域で活躍するための学び場づくり 草刈りや水路清掃など、地域での共同活動にまつわる基礎知識を学ぶ講習会 ・地域が協力する人を受け入れるための体制づくり 地域外の市民等が地元で活動することに対する理解促進と「受け入れる」といった意識の醸成、体制の構築 ・地域をまたいだ共同活動を支援する協力隊づくり 有志を募って協力隊を結成、地域共同活動を支援	●農業に関わりのない市民が、農業や自然環境の保全への関心を高め、地域農業を維持するための活動に農家と協働により取り組むことで、将来にわたって地域農業が維持され、本市の自然や景観を保全することができる。
総合計画審議会の意見		・「農業を通した地域づくり」と表現した方が良い。 ・「糸島の場を活用した市民と外部の人との交流の場づくり」といった趣旨の記載とし、農業体験などの取組を追加してはどうか。 ・労働力を確保するための取組を、アクションアイデアとして考えていただきたい。 ・若者の参入を促す仕組みづくりを追加していただきたい。	・「農業に関わりのない市民」との記載に違和感がある。 ・まず最初に、「市の豊かな自然や景観を保全するために」と記載してはどうか。 ・地域の発展や自然環境の保全について、農業を通して取り組んでいくという形での修正を検討いただきたい。
修正案	●豊かな自然環境や美しい景観は本市の魅力の一つであり、今後も維持し続ける必要がある。 ●現状において、自然環境や景観の保全につながる草刈りや水路清掃などの活動は、地域の農業者が担っていることが多い。 ●本市の農産物は全国的に認知度が高く、人気が高まっているものの、農業者の高齢化や担い手不足が進行しており、地域農業及び地域活動を維持するための労働力の確保が課題である。	●農村環境の維持・保全と地域活性化 ・さまざまな市民が、地域で活躍するための学び場づくり 草刈りや水路清掃など、地域での共同活動にまつわる基礎知識を学ぶ講習会 ・地域が協力する人を受け入れるための体制づくり 地域外の市民等が地元で活動することに対する理解促進と「受け入れる」といった意識の醸成、体制の構築 ・地域共同活動を支援する協力隊づくり 有志を募って協力隊を結成、地域共同活動を支援 ・糸島のフィールドを活用した交流の場づくり 地域と関わる人を創出し、農村環境の保全活動や地域農業における労働力不足の解消を図る。	●将来にわたり本市の豊かな自然環境や美しい景観を保全するとともに、高齢化や担い手不足といった課題に向き合う取組を支え、農村環境の維持や地域課題に対応することができるようになる。